

安達さん

双子パイロット空へ

地震乗り越え 訓練生に内定 崇城大を卒業

熊本地震で被災した熊本
県の崇城大工学部で航空操
縦学を専攻する安達航大さ
ん(22)と双子の弟雄大さん
(22)がそれぞれ全日空と日

航のパイロット訓練生に内
定し、19日取材に応じた。
20日に卒業する2人は、校
舎の損壊や授業中断といっ
た地震後の困難を振り返り
ながら「教官や教授ら多く
の人に助けられた。旅客機
を操縦して熊本空港に戻
り、恩返しをしたい」と意
気込んだ。

2人は茨城県つくばみらい市出身。幼い頃に父と訪れた羽田空港近くの公園で、飛び交う飛行機を眺めたのが、空に憧れた原点だった。高校生になり操縦士を目指そうと決意し、在学中に航空無線通信士の資格を取得。崇城大には特待生として合格し、2015年に入学した。

しかし、本格的な操縦訓練を前にした16年4月、熊本地震が発生。授業や訓練が一時中断し、その後プレハブの仮校舎や格納庫での授業が再開された。傷ついた街並みが復興する様子を見ながら飛行訓練をし、事業用操縦士などの免許を取った。

「切磋琢磨し信頼されるパイロットになりたい」と抱負を語る航大さんに続き、雄大さんも「一緒に航空業界を盛り上げたい」と力強く語った。



練習機の前に立つ安達航大さん(左)と弟の雄大さん。19日、熊本空港